

平成30年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

常盤小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、平成30年4月から7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各公私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各公私立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・常盤小学校では、5年生 241名

3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

- イ 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査（以下「児童質問紙調査」という。）
を実施する。

平成30年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証シート

全体の概要

大阪市立	常盤	小学校	児童数	241
------	----	-----	-----	-----

平均値

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.11	18.18	33.74	37.99	47.35	9.75	143.00	20.32	49.98
大阪市	16.50	19.30	32.69	39.78	49.39	9.37	149.73	21.98	52.80
全国	16.54	19.95	33.31	42.10	52.15	9.37	152.24	22.15	54.21
女子	15.38	19.27	37.91	37.15	42.09	9.86	139.28	12.52	54.17
大阪市	16.06	18.33	37.25	37.99	39.25	9.63	142.67	13.71	54.45
全国	16.15	18.96	37.62	40.32	41.88	9.60	145.94	13.77	55.90

結果の概要

「長座体前屈」は男子で0.43ポイント、女子で0.29ポイント、全国平均を上回った。また、女子は「上体起こし」で0.31ポイント、20mシャトルランで0.21ポイント、全国平均を上回っている。これらの結果から、柔軟性に関しては男女ともに良好であると言える。昨年度課題として挙げていた50m走については、男子で0.38ポイント、女子で0.26ポイント全国平均を下回る結果となった。「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」においても、男女ともに全国平均を下回る結果となっている。「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」においても、男女ともに全国平均を下回る結果となっている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

体育科の授業改善を行ってきている。限られた教育資源の中、より多くの活動時間・運動量が確保できるように、体育備品の整備と整理整頓を日常的に行ったり、時間割の調整を行ったりしている。また、授業展開に関しては、授業の始めに授業の目標を示したうえで学習をスタートさせる、授業の最後に今日学んだ内容を振り返る活動を行う、自分や友達の動きを確認するためにICT機器を活用するなどの工夫を行ってきている。これらの結果、「体育の授業は楽しいですか」「体育の授業では、たくさん動きますか」の質問に対して全国平均と同程度の肯定的回答を得るなど、取組の成果を確認することができる。

体育の授業以外にも、時期を決めてなわとび週間やかけあし週間を設けたり、放課後に運動場を開放したりするなど、日常的に児童が運動に親しめるようにしてきている。また、給食終了後の昼の時間帯に「パワーアップタイム」と称して運動に取り組む15分の時間を設けている。運動場、体育館をはじめ教室も活用して各種の運動に取り組んだり運動に親しむ機会を設けたりしている。

児童の体力や運動能力は改善傾向にあるものの、全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果からは、走る・跳ぶ・投げるといった基本の運動や俊敏性などについて全国平均を下回る結果となっていることから、引き続き児童の基礎体力・運動能力の向上、運動意欲の向上を図っていく必要がある。